

## 第44期

# 運用報告書(全体版)

## 日本財形給付金ファンド

【2019年12月19日決算】

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「日本財形給付金ファンド」は、2019年12月19日に第44期決算を行いましたので、期中の運用状況のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券
信託期間	1975年12月20日から原則として無期限です。
運用方針	勤労者財産形成促進法の財形給付金制度に基づいて、事業主が従業員の財産形成のために拠出した資金を運用する財形給付金専用のファンドとして、公社債への投資により安定した収益の確保を目標に運用を行います。 公社債への投資割合については制限を設けませんが、給付金の支払時期を考慮して組入比率および組入公社債の償還年次別分散投資を行い、適正な流動性を保持するよう運用します。
主要投資対象	公社債を主要投資対象とします。
投資制限	公社債への投資割合には制限を設けません。
分配方針	運用による収益は分配しないで信託財産に留保し、委託会社と事業主との間で締結した勤労者財産形成給付金契約に定める給付金の支払時期または信託終了時に拠出金と一括してお支払いします。

## ○最近3期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		債組入比率	債券先物比率	純資産総額
		期騰	落中率			
	円		%	%	%	百万円
42期(2017年12月19日)	4,222		△0.3	63.4	—	16
43期(2018年12月19日)	4,222		0.0	92.4	—	15
44期(2019年12月19日)	4,221		△0.0	93.5	—	15

(注) 基準価額は1千口当たり。

(注) 当ファンドは、元本の安全性を優先した運用を行っているため、特定のベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

(注) 債券先物比率=買建比率-売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

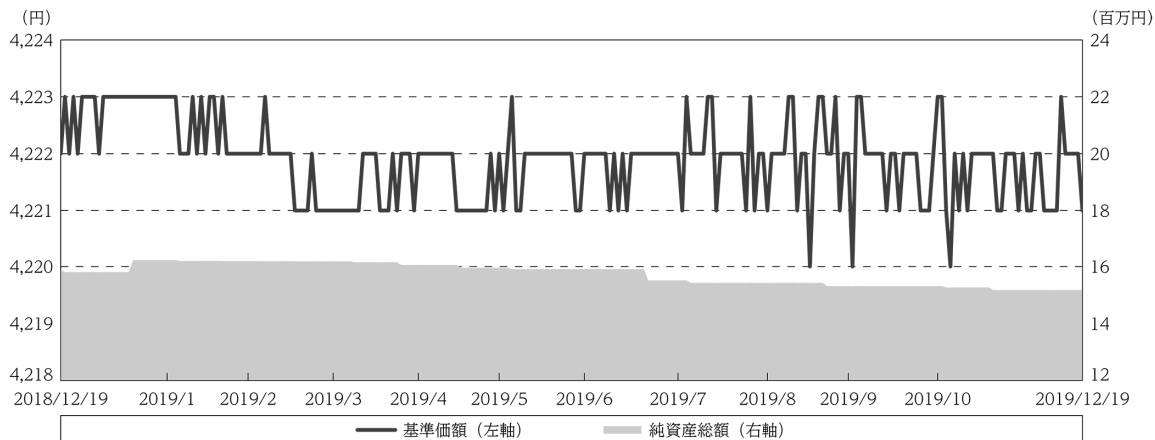
年月日	基準価額	騰落率		債組入比率	債券先物比率	債券率
		騰	落率			
(期首)	円		%	%	%	%
2018年12月19日	4,222		—	92.4	—	—
12月末	4,223		0.0	84.0	—	—
2019年1月末	4,223		0.0	81.8	—	—
2月末	4,222		0.0	88.3	—	—
3月末	4,221		△0.0	69.7	—	—
4月末	4,222		0.0	76.7	—	—
5月末	4,222		0.0	77.1	—	—
6月末	4,222		0.0	83.9	—	—
7月末	4,222		0.0	92.6	—	—
8月末	4,221		△0.0	93.1	—	—
9月末	4,222		0.0	93.7	—	—
10月末	4,223		0.0	84.2	—	—
11月末	4,222		0.0	84.9	—	—
(期末)						
2019年12月19日	4,221		△0.0	93.5	—	—

(注) 騰落率は期首比。

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2018年12月20日～2019年12月19日)



期首：4,222円

期末：4,221円 (既払分配金(税引前)：－円)

騰落率：△ 0.0%

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

## (主なプラス要因)

- ・組み入れた債券による利息収入がプラスに寄与しました。

## (主なマイナス要因)

- ・信託報酬等の諸費用などがマイナスに影響しました。
- ・一部保有銘柄の債券価格が下落したことがマイナスに影響しました。

**投資環境**

(2018年12月20日～2019年12月19日)

国内経済は、世界経済の減速を受けて輸出が低迷する中、個人消費が堅調に推移したことや、企業の設備投資の底堅い拡大が続いたことなどから、緩やかな景気拡大基調が続きました。一方、消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年比1%を割る水準での伸び率で、低調に推移しました。こうした経済環境の中で日銀は、2%の物価安定の目標の実現を目指し、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続しました。

当期間における短期金融市場は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続していることを受けて、2019年7月まで、1年国債利回りが-0.10%から-0.20%のレンジ内で推移しました。その後、米中貿易摩擦の激化を背景に景気減速懸念が強まり、世界的に債券利回りが低下したことや、日銀の追加金融緩和観測の高まりなどから、1年国債利回りが低下基調を辿り、10月には一時-0.306%まで低下しました。しかしその後、日銀のマイナス金利深掘り観測の後退や、海外中央銀行の追加利下げ期待の急速な低下を受け、1年国債利回りは-0.13%程度へ上昇して期末を迎えました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2018年12月20日～2019年12月19日)

ファンドの商品性に鑑み、政府保証債や地方債などの信用力の高い債券を中心に投資を行い、安定収益の確保に努めました。また、組入債券の残存年限につきましては、価格下落リスクを抑えるため3年程度までとしております。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2018年12月20日～2019年12月19日)

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

**分配金**

(2018年12月20日～2019年12月19日)

運用による収益は分配しないで信託財産に留保し、委託会社と事業主との間で締結した勤労者財産形成給付金契約に定める給付金の支払時期または信託終了時に拠出金と一括してお支払いします。

**今後の運用方針**

今後の運用につきましては、信用リスクに関しては慎重姿勢を継続し、安定収益の確保を目指します。景気や市中金利の動向を見極めつつ、信用リスクに十分留意し、信用力の高い公社債に投資していく方針です。

## ○ 1千口当たりの費用明細

(2018年12月20日～2019年12月19日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(2)	(0.048)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(1)	(0.027)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	(1)	(0.025)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( そ の 他 )	(0)	(0.001)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	4	0.103	
期中の平均基準価額は、4,222円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

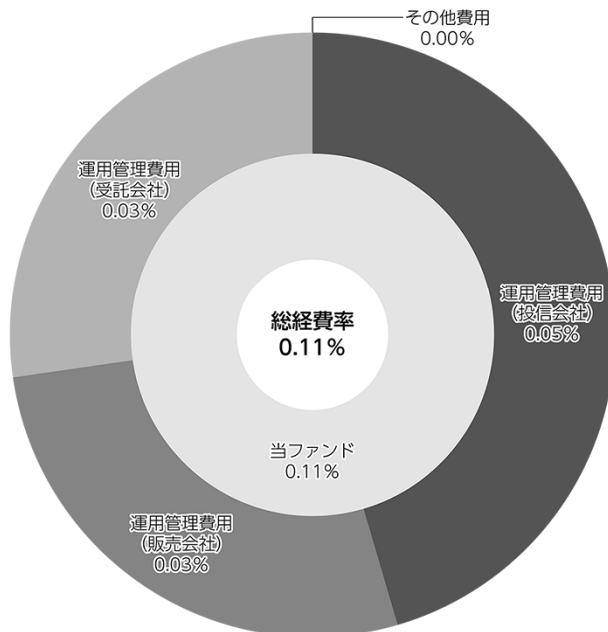
(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1千口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.11%です。



(注) 当ファンドの費用は1千口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2018年12月20日～2019年12月19日)

公社債	
-----	--

		買付額	売付額
国内	地方債証券	千円 5,096	千円 — (5,610)
	特殊債券	4,093	— (4,000)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ( )内は償還等による増減分です。

## ○利害関係人との取引状況等

(2018年12月20日～2019年12月19日)

利害関係人との取引状況	
-------------	--

区分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$		うち利害関係人との取引状況 D	$\frac{D}{C}$	
公社債	百万円 9	百万円 4	% 44.4	百万円 —	百万円 —	% —

(注) 公社債には現先などによるものを含みません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

## ○組入資産の明細

(2019年12月19日現在)

## 国内公社債

## (A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
地方債証券	8,000 ( 8,000)	8,071 ( 8,071)	46.9 (46.9)	— (—)	— (—)	11.9 (11.9)	35.0 (35.0)
特殊債券 (除く金融債)	6,000 ( 6,000)	6,117 ( 6,117)	35.5 (35.5)	— (—)	— (—)	23.7 (23.7)	11.8 (11.8)
合 計	14,000 (14,000)	14,189 (14,189)	82.4 (82.4)	— (—)	— (—)	35.6 (35.6)	46.8 (46.8)

(注) ( )内は非上場債券で内書きです。

(注) 組入比率は、資産総額に対する評価額の割合。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期			末	
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
	%	千円	千円		
<b>地方債証券</b>					
平成24年度第3回静岡県公募公債	0.906	1,000	1,021	2022/5/20	
平成23年度第17回愛知県公募公債 (10年)	0.996	1,000	1,020	2022/8/31	
平成22年度第1回新潟県公募公債	1.05	1,000	1,009	2020/11/30	
平成23年度第1回新潟県公募公債	1.02	1,000	1,019	2021/11/30	
平成27年度第3回京都市公募公債	0.136	1,000	1,001	2020/9/29	
平成26年度第3回横浜市公債「ハマ債5」	0.16	1,000	999	2019/12/25	
平成27年度第4回福岡市公募公債 (5年)	0.141	1,000	1,001	2020/9/28	
平成27年度第3回千葉市公募公債	0.13	1,000	998	2020/12/25	
小 計		8,000	8,071		
<b>特殊債券(除く金融債)</b>					
第157回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.9	1,000	1,019	2022/2/28	
第170回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.801	1,000	1,022	2022/8/31	
第177回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	0.805	1,000	1,024	2022/11/30	
第21回政府保証地方公共団体金融機構債券	1.2	2,000	2,029	2021/2/15	
第40回政府保証地方公共団体金融機構債券	0.819	1,000	1,022	2022/9/16	
小 計		6,000	6,117		
合 計		14,000	14,189		

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。



## ○投資信託財産の構成

(2019年12月19日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 14,189	% 82.4
コール・ローン等、その他	3,035	17.6
投資信託財産総額	17,224	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2019年12月19日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資産	17,224,962 円
コール・ローン等	3,015,779
地方債証券(評価額)	8,071,761
特殊債券(評価額)	6,117,970
未収利息	16,144
前払費用	3,308
(B) 負債	2,051,756
未払金	2,043,930
未払信託報酬	7,605
未払利息	5
その他未払費用	216
(C) 純資産総額(A-B)	15,173,206
元本	3,594,606
次期繰越損益金	11,578,600
(D) 受益権総口数	3,594,606口
1千口当たり基準価額(C/D)	4,221円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、4,2210円です。

(注) 当ファンドの期首元本額は3,760,567円、期中追加設定元本額は864,292円、期中一部解約元本額は1,030,253円です。

## ○損益の状況 (2018年12月20日～2019年12月19日)

項 目	当 期
(A) 受取利息等収益	75,556 円
受取利息	76,754
支払利息	△ 1,198
(B) 有価証券売買損益	△ 20,953
売買益	5,196
売買損	△ 26,149
(C) 有価証券評価差損益	△ 43,740
(D) 信託報酬等	△ 16,024
(E) 当期利益(A+B+C+D)	△ 5,161
(F) 前期繰越損益金	12,118,395
(G) 追加信託差損益金	2,785,053
(H) 解約差損益金	△ 3,319,687
(I) 計(E+F+G+H)	11,578,600
次期繰越損益金(I)	11,578,600

(注) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

(注) 期末の信託報酬率は0.1%です。

## 〈お知らせ〉

該当事項はございません。